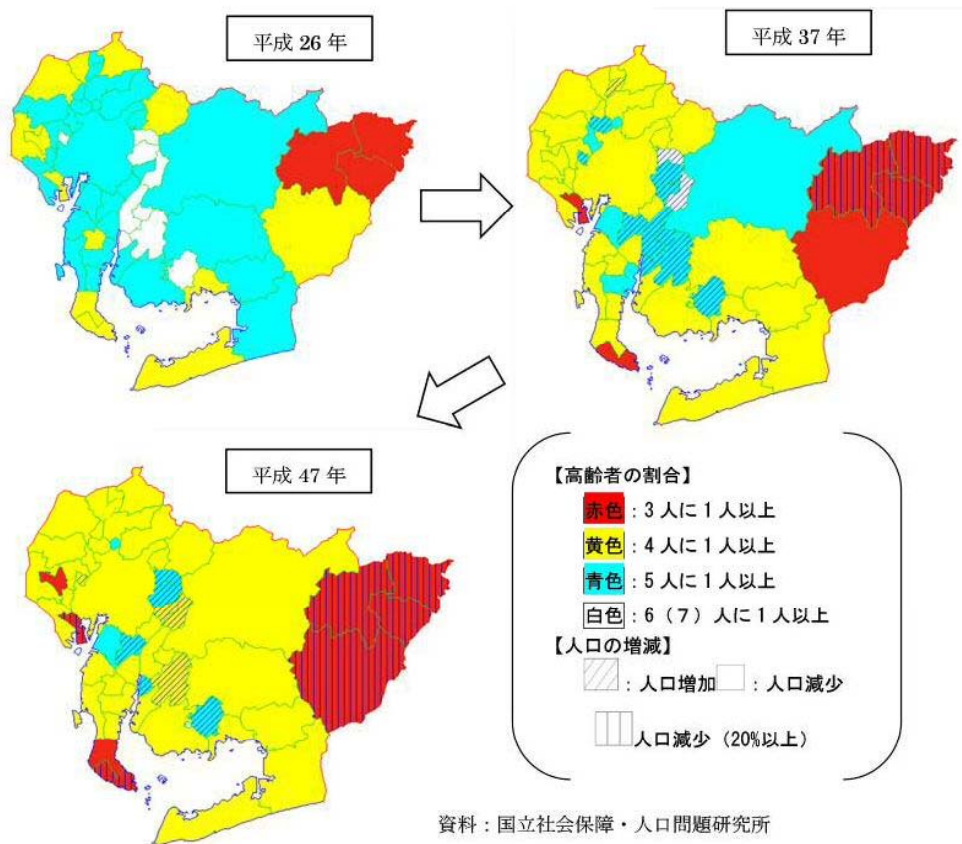


## (2) 地域の状況に応じたプラットフォームの構築

一口に愛知県と言っても、地域によって状況が大きく異なることは先述のとおりであるが、今後の高齢化の進展及び人口増減の推計は次のとおりとなっている。高齢化の進展は人口の増減とも密接に関係し、効果的に施策を推進するためには、地域の状況に応じたプラットフォームを構築していくことが重要であることから、特徴的な2つの地域について、それぞれに対応する地域モデルを提示する。

### 高齢化率と人口増減の推移



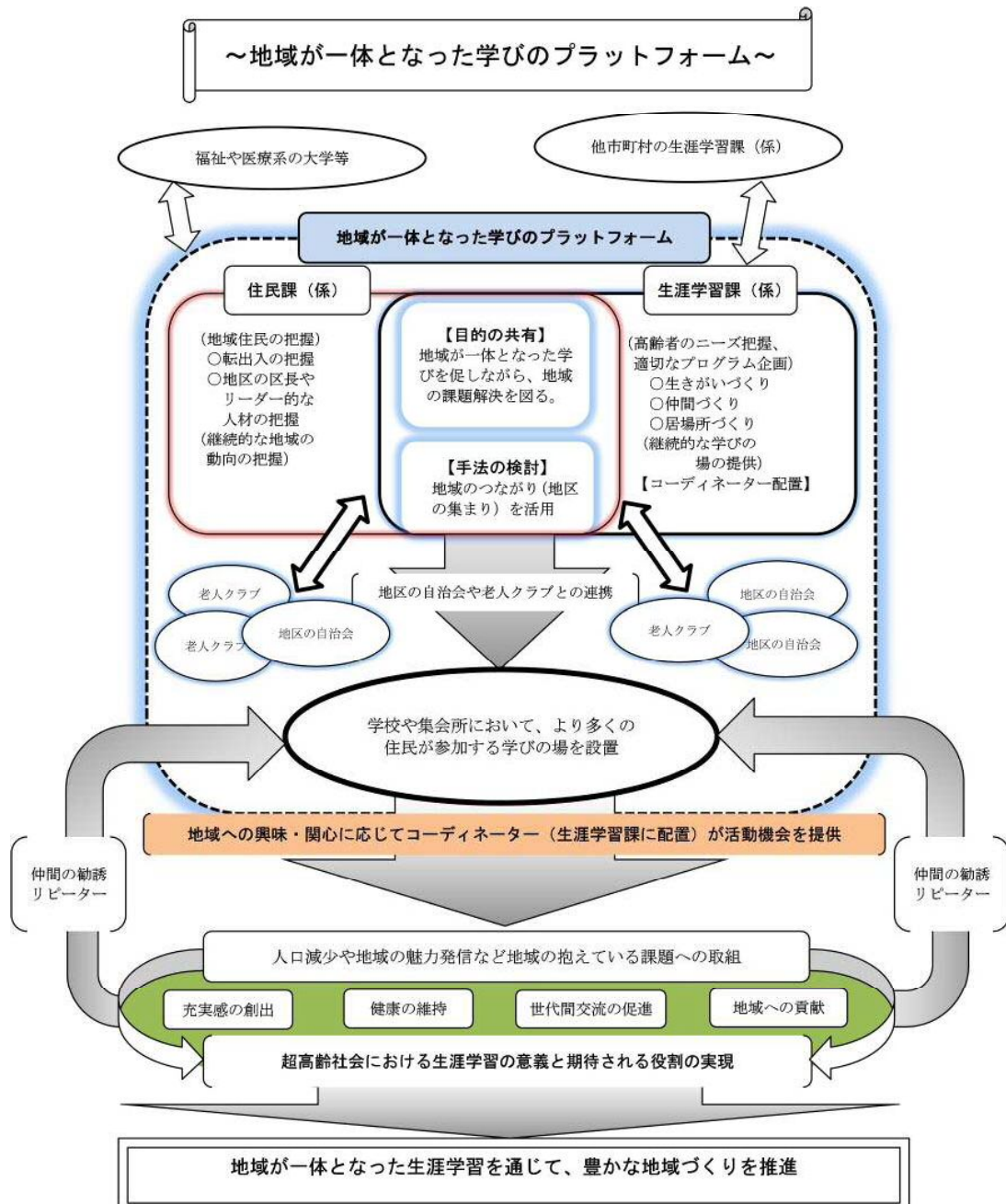
平成 26 年と比較して、平成 47 年に人口が大幅に減少する市町村  
過疎地域が多く、高齢化も著しく進展している。人口が減少していく中で、地区の自治会や老人クラブなど地域の組織と協働して、地域が一体となった生涯学習のプラットフォームを構築する。 ⇒ 地域モデル①



平成 26 年と比較して、平成 47 年に人口が増加する市町  
企業や大学が多く、比較的 average 年齢の若い地域と言える。新しい地域と従来からの地域とがある中で、企業、大学だけでなく、NPO等の地域団体とも協働して、産学官民が一体となった生涯学習のプラットフォームを構築する。

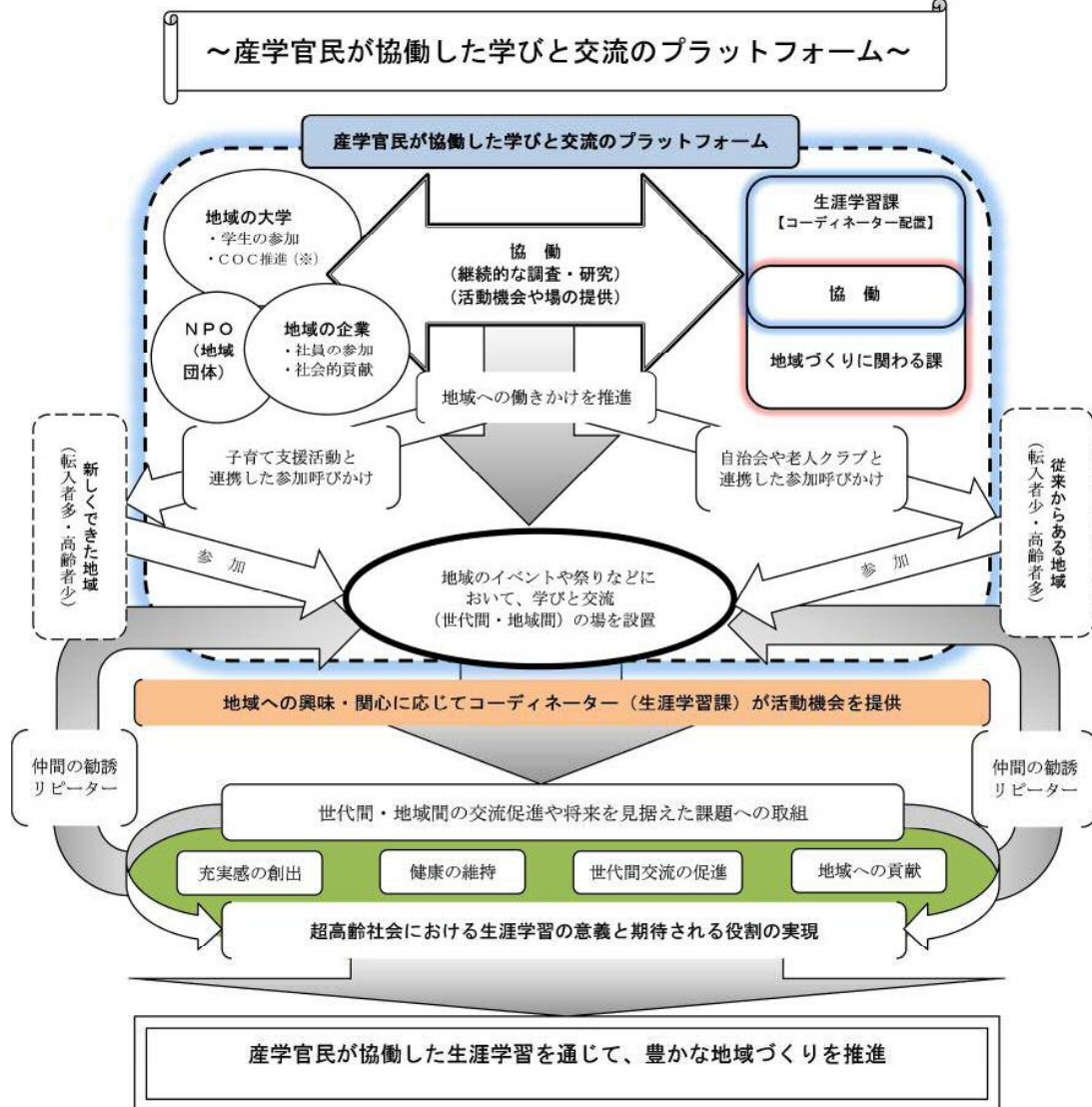
⇒ 地域モデル②

○地区の自治会や老人クラブ等との連携によって生涯学習を推進する地域モデル①



人口が大幅に減少する地域は、過疎地域であることが多く、地域のつながりは今もなお濃く残っている。生涯学習課と地域の住民に関わる課とが協働しながら、地区の自治会や老人クラブ等に働きかけ、地域ニーズの把握や講座の企画・運営など積極的な協働を推進する。高齢者が多いことから、福祉や医療系の大学等による保健師等に対する勉強会など地域全体の健康づくりのサポートも受けながら、場合によっては、他市町村の生涯学習課とも連携し、より多くの住民が参加する地域が一体となった学びのプラットフォームを構築する。

○企業、大学、NPO等との協働によって生涯学習を推進する地域モデル②



人口が増加する地域は、大学や企業が立地していることが多く、新しくできた地域と従来からある地域との世代間交流や将来を見据えた地域づくりが喫緊の課題である。生涯学習課と地域づくりに関わる課、さらに地域の大学や企業、世代を超えて地域の課題に取り組んでいるNPO等とが協働し、子育て支援活動や自治会、老人クラブなどの場を活用して、積極的な参加を地域に働きかけ、若い世代から高齢の世代まであらゆる世代の人々が参加する産学官民の協働による学びと交流（世代間・地域間）のプラットフォームを構築する。

(※) COC : Center of Community の略で、地域コミュニティの中核的存在のこと。

### (3) 生涯学習から生まれる新たなコミュニティ

地域の状況は多様である。高齢化率が近似している市町村であっても、それぞれの世帯構造別割合や地域活動への参加状況、他にも地域の有している伝統や文化などは異なっており、一つとして同じ地域は存在しない。しかしながら、健康づくりという側面から、健康増進関係課と生涯学習課とが協働して、新たな学びの場を提供し、そこに最新の知見を取り入れて健康長寿を図っていくことは、地域の状況に関わらず、必要なことである。基本となるベースに「あいちモデル」を置きながら、高齢化や人口増減の状況に応じた地域モデル、さらにはそれらを組み合わせて新たな地域モデルを構築していくことが効果的と思われる。

さらに、高齢化の状況のみに限らず、地域の直面している様々な課題を考えれば、求められるプラットフォームも多種多様なものとなる。例えば、南海トラフ地震の被害が予測されている地域では、防災・減災への取組を加えたプラットフォームが求められるし、豊かな観光資源を有する地域では、さらなる観光振興への取組を加えたプラットフォームが有効である。要するに、地域の置かれている状況に応じて、地域の人々が自ら考え、その地域にとって最適なプラットフォームを構築していくことが何よりも大切なことである。そのようにして構築されたプラットフォームに参加するのは、過去の震災被害を知る人々であったり、観光ボランティアなど地域で既に活動している人々であったりすることになる。

こうして、高齢者に限らず、あらゆる世代の多様な人々によって、地域に残る伝統文化や豊かな自然などの地域資源を活かす取組、日本一のモノづくり県である本県モノづくりのノウハウなどを伝承する取組、あるいは山車や歴史的な文化財など豊富な観光資源を活用する取組など、本県の有する特長を活かした地域づくりが進められる。そうした活動を通して、健康の維持が図られ、充実感が生まれるとともに、地域への貢献や世代間の交流が促進され、結果的に幾重にも重なった重層的な循環の環が作られることになる。

このようにして形成されたつながりは、かつての地縁、血縁的なつながりではなく、生涯学習を通じて形成された、現代的で新たなコミュニティと言えるものである。

## おわりに

従来は高齢化の進展速度が注目されていたが、超高齢社会が到来し、今後は高齢化率の高さ、すなわち高齢者数の多さに注目が集まることになる。長寿は永年にわたる人間の宿願であり、元気な高齢者が増えることは喜ぶべきことである。

しかしながら、高齢者数の多さが問題となるのは、なぜなのか。それは、今の社会保障の仕組みが高齢化の進展に追いついていないからである。現在の社会保障制度のみに限らず、これまで築き上げてきた社会の制度が今後も十分に機能するとは限らない。医療や介護、生活支援など、複雑で多様な問題が今よりはずっとリアルに、そしてより身近なものとなって、今は高齢者ではない世代に重くのしかかってくる。

医療費や社会保障費をどうするかという問題は別に議論することが必要であるが、これからは、そうした社会保障制度のみに頼らずに、より一層自立して、自らの考えで、さらに言うならば、自らの責任において、各個人が充実した人生を送っていくことが求められる。

ここに、超高齢社会における生涯学習の在り方を考える意義がある。生涯学習を通して、多くのことを学び、学んだ成果を活かしていく中で、さらに学びを深め、自身の世界を拓けていくとともに、地域社会にも参画し、それが豊かな地域づくりにもつながっていく……。その豊かな循環を創りだしていくために、5つの提言を行ったが、これが県や市町村の施策の参考となり、超高齢社会に適応した生涯学習施策が推進されることを期待するとともに、適切に施策が推進されていくことにより、高齢の世代だけでなく、その後続く世代も含めて、一人でも多くの県民の方々が、超高齢社会における生涯学習の在り方について考え、将来の自らの姿を想像し、準備していくことによって、何歳になっても、生きがいをもって、充実した人生を過ごすことができるよう、本報告書がその一助となることを願うものである。

- 資料編 -

## あいちシルバーカレッジ受講者等へのアンケート

### 【あいちシルバーカレッジ受講者へのアンケート】

アンケート実施期間：平成 27 年 6 月 24 日～7 月 9 日までの間の開校日

アンケート実施方法：シルバーカレッジの各会場にて、受講者にアンケートを配布し、  
その場で回収する方法により実施

アンケート回収者：534 名（豊橋会場はじめ 8 会場）

(年齢内訳)

60～64 歳： 42 名

65～69 歳： 231 名

70～74 歳： 165 名

75～79 歳： 68 名

80～84 歳： 10 名

年齢不詳： 18 名

(性別内訳)

男性： 216 名

女性： 302 名

不詳： 16 名

---

534 名

---

534 名（平均 69.7 歳）

### 【老人クラブ加入者へのアンケート】

アンケート実施期間：平成 27 年 6 月 16 日～7 月 17 日

アンケート実施方法：各市町村を通じて、老人クラブを所管する部署（社会福祉協議  
会等）に依頼し、アンケートに協力可能と回答のあった市町村  
にアンケートを送付して実施

アンケート回収者：653 名（名古屋市はじめ 38 市町村）

(年齢内訳)

60～64 歳： 8 名

65～69 歳： 45 名

70～74 歳： 201 名

75～79 歳： 233 名

80～84 歳： 112 名

85～89 歳： 21 名

90～94 歳： 3 名

年齢不詳： 30 名

(性別内訳)

男性： 482 名

女性： 143 名

不詳： 28 名

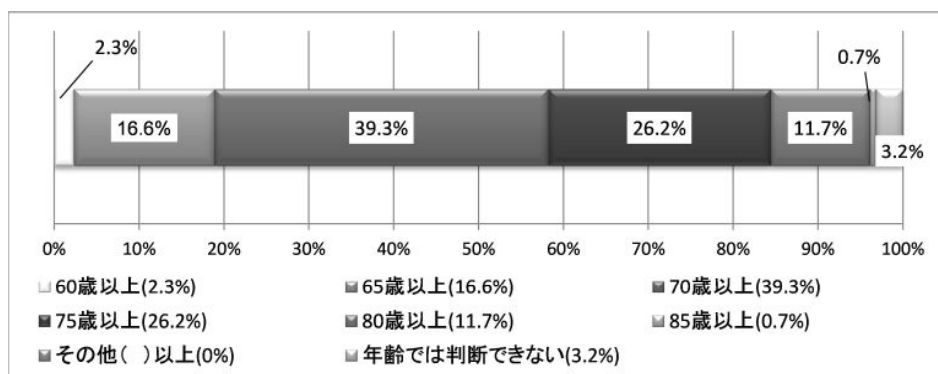
---

653 名

---

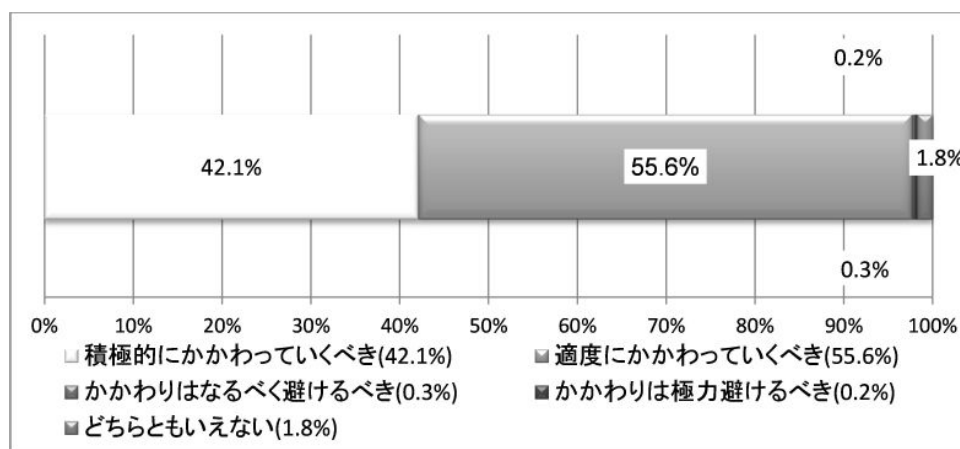
653 名（平均 75.7 歳）

○ あなたは、一般的に高齢者とは、何歳以上だと思いますか。(○は一つ)



あいちシルバーカレッジ受講者および老人クラブ加入者（以下「調査実施高齢者」とする。）に対して行ったアンケートでは、「70歳以上」（39.3%）という回答の割合が最も多く、次いで「75歳以上」（26.2%）となっており、調査実施高齢者のうち65.5%の人が、高齢者とは「70歳代」と回答している。

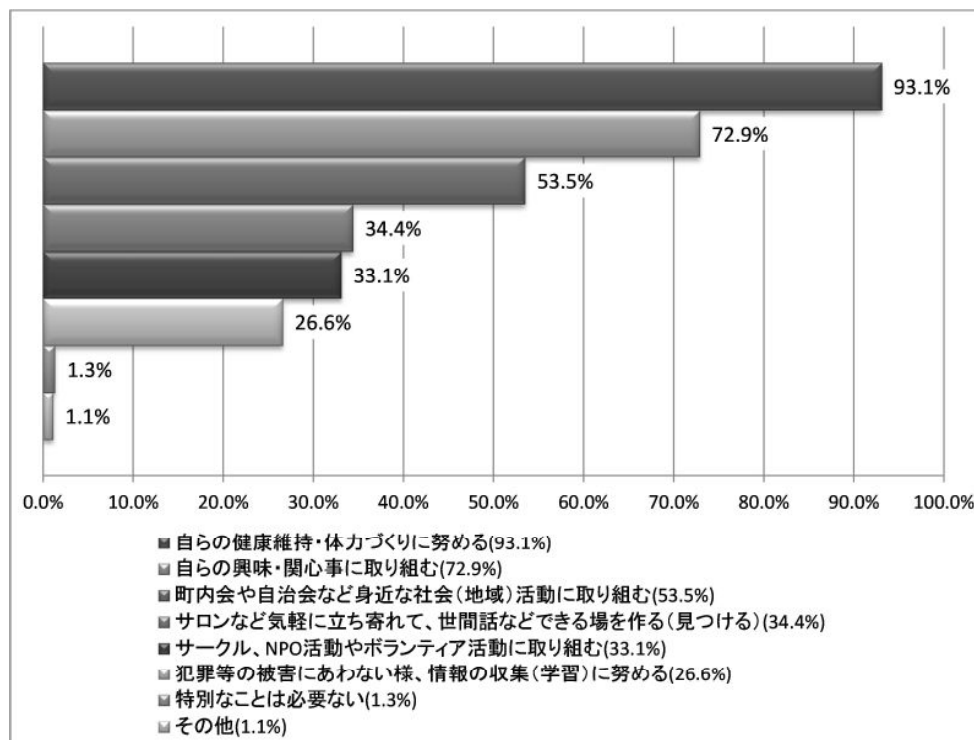
○ あなたは、これからの超高齢社会に対応して、社会（地域）とどのようにかかわっていくべきだと思いますか。(○は一つ)



調査実施高齢者のうち、「積極的にかかわっていくべき」が42.1%、「適度にかかわっていくべき」が55.6%となっており、9割以上(97.7%)の人が程度の差はあるが、社会（地域）とかかわっていくべきと考えている。



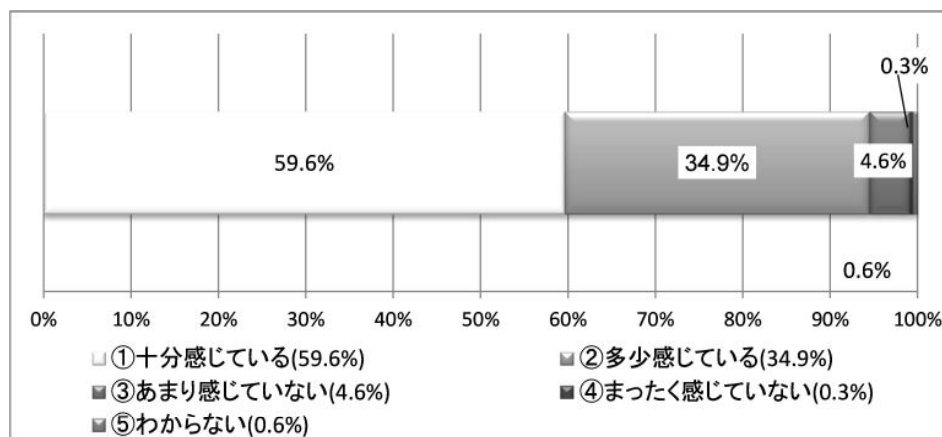
- 今後、さらに高齢化がすすむことに備えて、あなたは、ご自分にとってどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)



全回答者のうち、「自らの健康維持・体力づくりに努める」と回答した人が最も多く(93.1%)、次いで「自らの興味・関心事に取り組む」(72.9%)、「町内会や自治会など身近な社会(地域)活動に取り組む」(53.5%)と続いている。

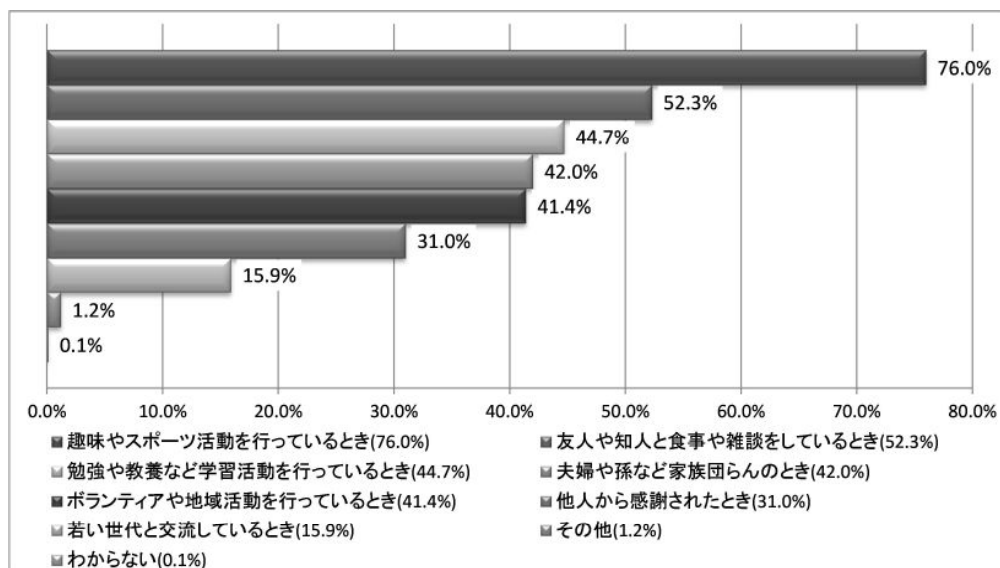
「特別なことは必要ない」と回答した人は1.3%で、ほとんどの人が、今後、高齢化がすすむことに備えて何らかの活動が必要と考えている。

- あなたは、現在、どの程度生きがいを感じていますか。(○は一つ)



調査実施高齢者のうち、「十分感じている」が59.6%、「多少感じている」が34.9%となっており、9割以上(94.5%)の人が程度の差はあるが、生きがいを感じている。

○ あなたが生きがいを感じるのはどのような時ですか。(○はいくつでも)



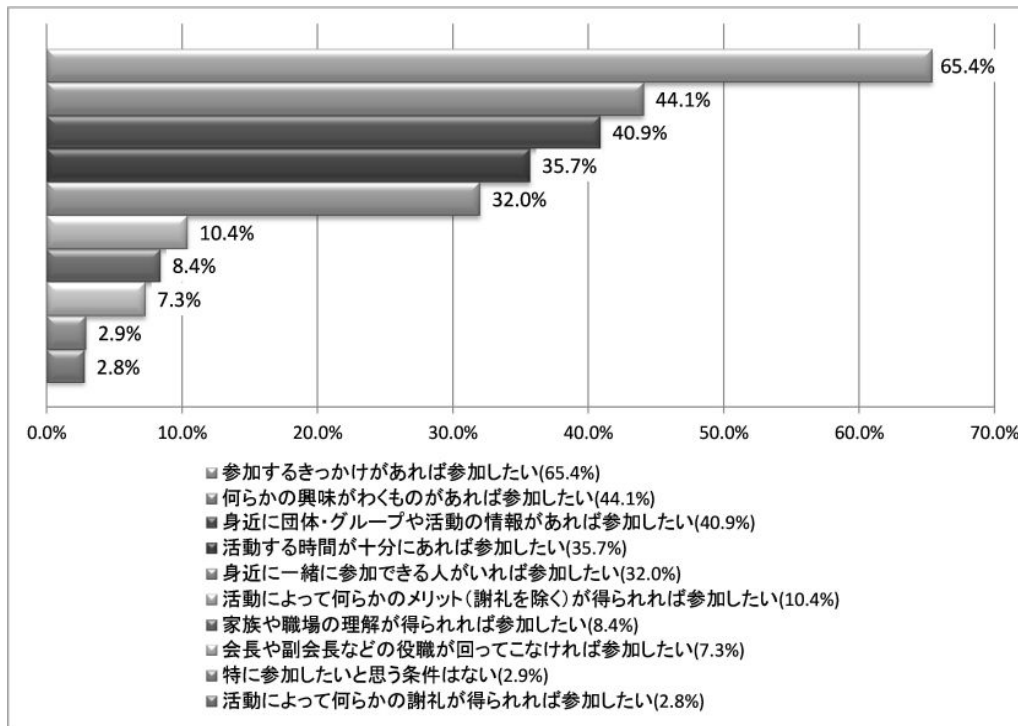
全回答者のうち、「趣味やスポーツ活動を行っているとき」と回答した人が最も多く（76.0%）、次いで「友人や知人と食事や雑談をしているとき」（52.3%）、「勉強や教養など学習活動を行っているとき」（44.7%）となっている。

○ あなたは、この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている次のような活動に参加したことがありますか。(○はいくつでも)

自治会・町内会・老人クラブなどの活動	70.6%
道路・公園の清掃活動や草取りなどの共同作業	64.8%
運動会・盆踊り・お祭りなどのレクリエーション活動	51.3%
音楽・写真・学習会など、文化サークル活動	32.9%
防犯や交通安全に関わる活動	31.7%
防火や防災に関わる活動	25.7%
廃品回収や不用品の交換会などのリサイクル活動	25.1%
高齢者や障害のある方への手助けなどの活動	19.8%
野球やバレーボールなど、スポーツのサークル活動	16.2%
自然環境の保全に関わる活動	9.2%
シルバー人材センターでの活動	7.2%
子育て支援にかかわる活動	6.5%
子ども会や少年スポーツチームの指導や世話	6.0%
活動・参加したものはない	3.2%
PTA 活動	2.8%
その他	2.2%

「自治会・町内会・老人クラブ活動など」と回答した者の割合が最も高く（70.6%）、次いで「道路・公園などの清掃活動」（64.8%）となっているが、「活動・参加したものはなし」は3.2%で、ほとんどの人がこの1年間に何らかの活動に参加している。

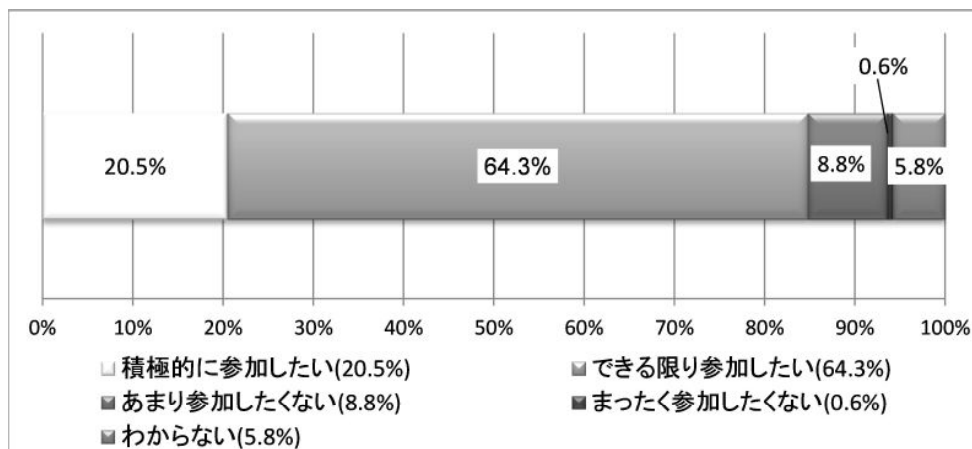
○ あなたは、どのようなこと（条件）があれば、そのような活動に参加したいと思いますか。（○はいくつでも）



「参加するきっかけがあれば参加したい。」と回答した人の割合が最も高くなっていること（65.4%）、次に「何らかの興味がわくものがあれば参加したい。」と続いていること（44.1%）から、活動への参加を得るためには、高齢者の興味をひくような何らかのきっかけづくりが必要であると考えられる。

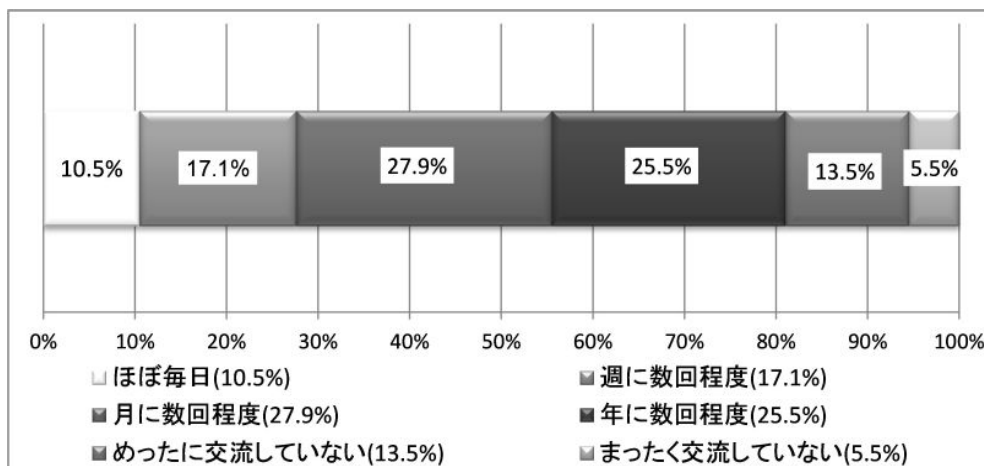
また、「活動によって何らかの謝礼が得られれば参加したい。」の割合が最も低くなっていること（2.8%）から、活動するに当たって、必ずしも謝礼は望まれていないと思われる。

○ あなたは、世代間交流についてどのように考えていますか。(○は一つ)



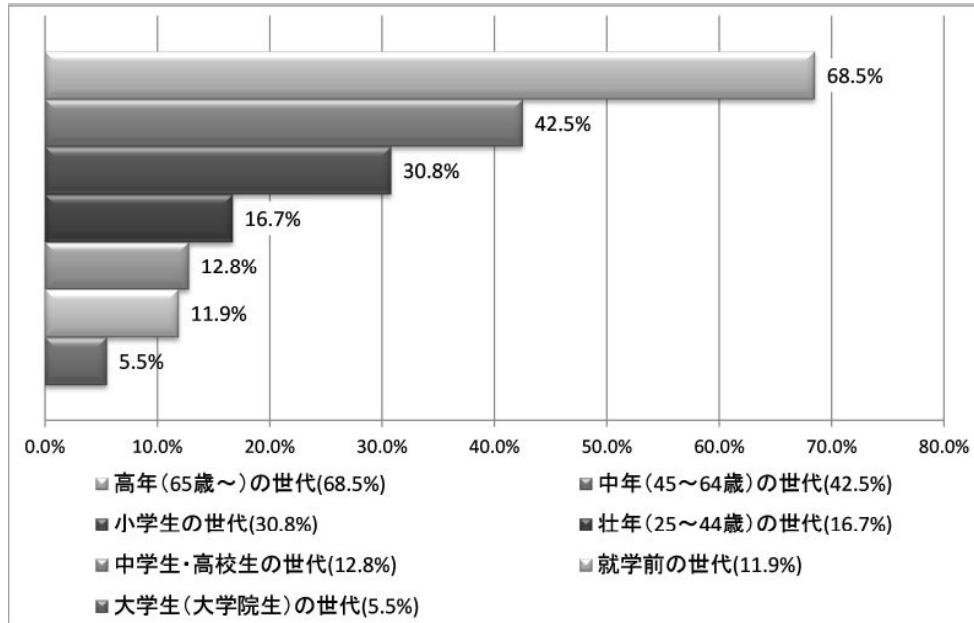
調査実施高齢者のうち、「積極的に参加したい」の割合が20.5%、「できる限り参加したい」が64.3%となっており、8割以上(84.8%)の人が程度の差はあるが、世代間交流への参加意向を有している。

○ あなたは、異なる世代と交流していますか。(○は一つ)



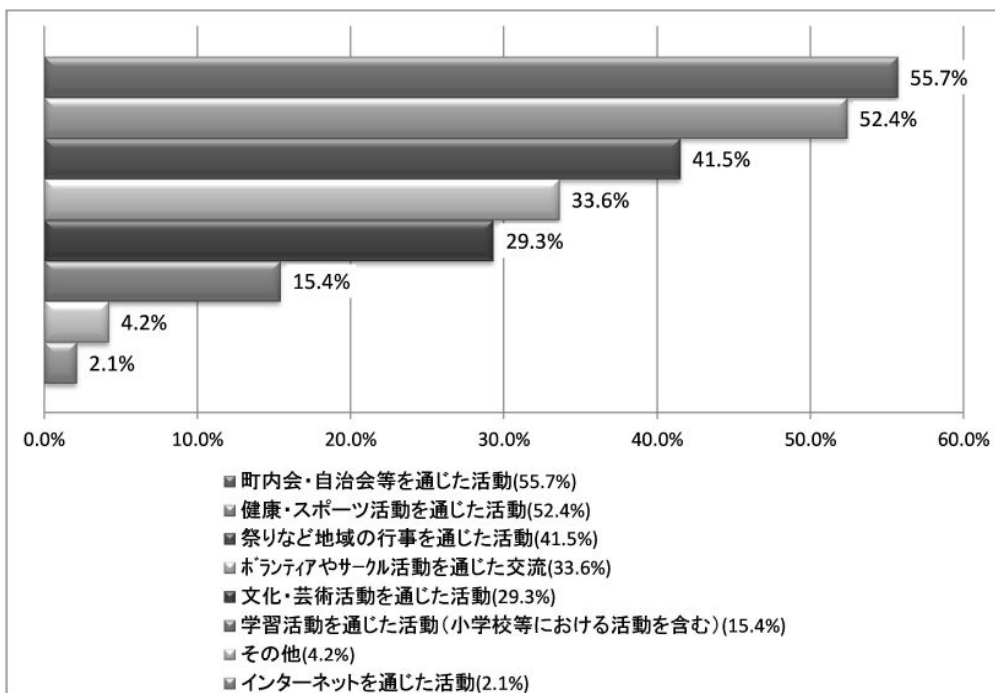
調査実施高齢者のうち、「月に数回程度」が27.9%で最も高く、次いで「年に数回程度」が25.5%となっている。「めったに交流していない」(13.5%)と「まったく交流していない」(5.5%)の合計は19%になり、およそ5人に1人がほとんど世代間の交流がない状態となっている。

- あなたは、家族以外の方との交流について、どのような世代との交流が多いですか。  
 (○はいくつでも)



調査実施高齢者のうち、「高年(65歳~)の世代」と回答した人の割合が68.5%で最も高く、次いで「中年(45~64歳)の世代」が42.5%となっており、比較的、自身の年齢に近い世代との交流が多くなっている。

- あなたは、異なる世代の方とどのような交流をしていますか。(○はいくつでも)  
 また、具体的な活動内容を教えてください。

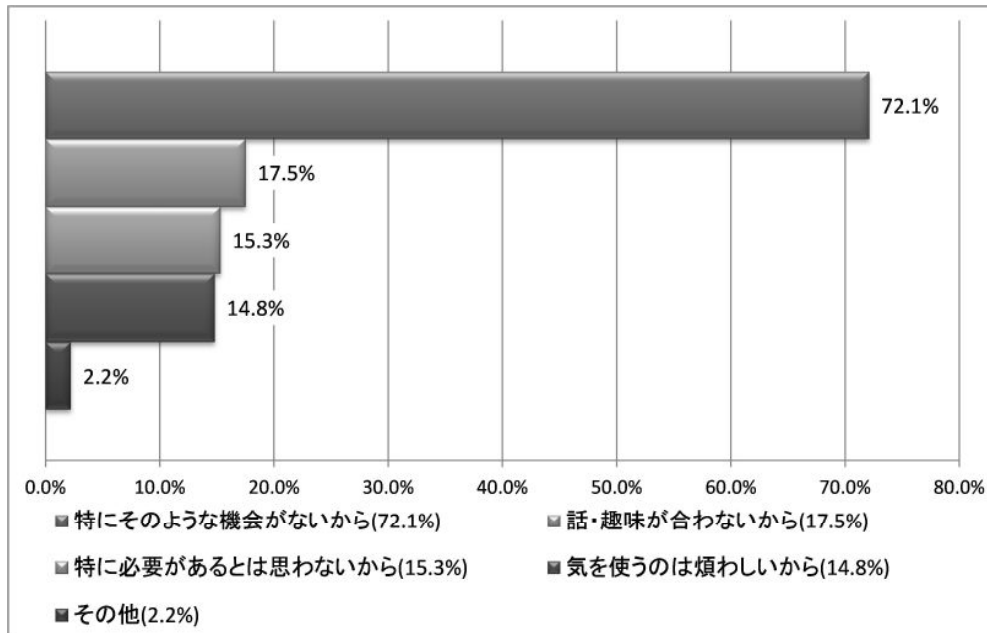


「町内会・自治会等を通じた活動」が55.7%で最も高く、次いで「健康・スポーツ活動」(52.4%)、「祭りなど地域の行事を通じた活動」(41.5%)となっており、これらの場が世代間交流の重要な場となっている。

**【具体的な活動内容（自由記述）】**

- ・スポーツジムやお稽古事でのかかわり
- ・海のゴミ拾い活動、清掃活動
- ・太極拳教室、エアロビクスサークル、ヨガ、社交ダンス
- ・NPO 法人でのボランティア活動
- ・児童センターでの指導員
- ・介護施設におけるボランティア活動
- ・絵本等の読み聞かせ、読書会、朗読ボランティア
- ・ゴルフや食事会
- ・近所の人たちとのおしゃべり、ウォーキング、軽スポーツ、里山ハイキングの会
- ・地域の花壇の管理活動
- ・民生委員としての活動
- ・トワイライトスクールのお手伝い
- ・介護及び盲人の方との交流・買物等
- ・パソコン教室、卓球、バドミントン、絵画鑑賞、グラウンドゴルフ、カラオケ教室
- ・大学体育会のOB会
- ・子ども会、PTA 活動、子育て支援活動
- ・学区の連絡協議会、学区の体育祭、盆踊り
- ・老人会による小学生への米作り、昔遊び指導
- ・さつまいも掘り大会、コミュニティ祭り、区民祭り
- ・小学校下校時の見守り隊、登下校時の交通安全活動、パトロール活動
- ・中学校における環境活動
- ・高校生のクラブ活動の支援
- ・三世代でのしめ縄づくり、餅つき
- ・体育振興会での活動
- ・民謡、童謡ダンス
- ・保育園、幼稚園での活動、保育園と老人クラブとの交流会
- ・小学生の家で将棋指導
- ・独居者への給食づくり活動
- ・戦争体験を語る会
- ・愛知県健康づくりリーダーとしての活動
- ・交流館での活動
- ・町内有志による一泊旅行

- あなたが、異なる世代の方と「交流していない」理由は何ですか。  
(○はいくつでも)



全回答者のうち、「特にそのような機会がないから」の割合が72.1%で最も高くなっているが、これは世代間交流のための機会が提供されれば、世代間の交流が行われる可能性を示しているものと考えられる。

## 【青年講座受講生へのアンケート】

アンケート実施期間：平成 27 年 7 月 16 日～7 月 24 日

アンケート実施方法：生涯学習課が主催して行う青年講座への参加者（平成 23 年度～27 年度）に対して、アンケートを郵送して実施した。

アンケート回収者：30 名

(年齢内訳)

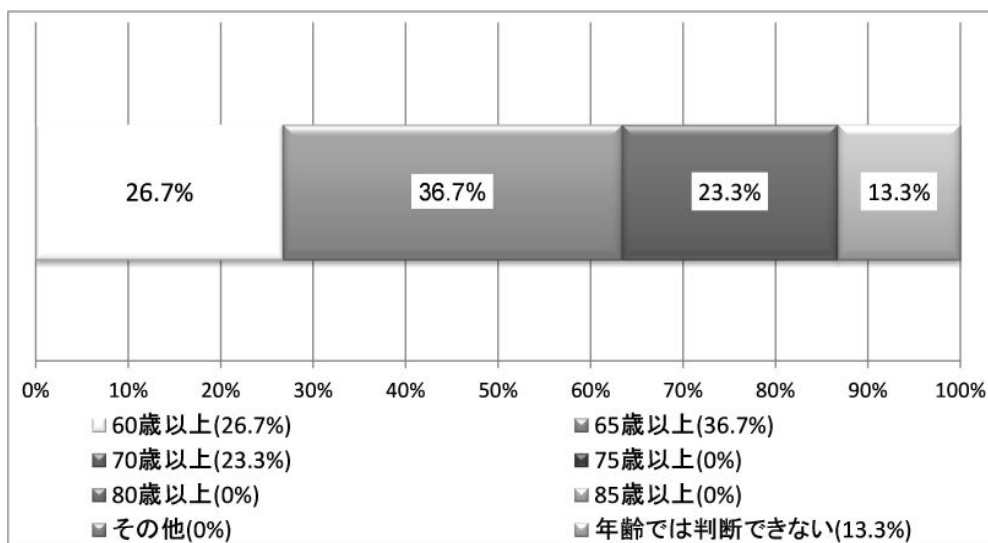
15～19 歳： 6 名	35～39 歳： 1 名
20～24 歳： 13 名	40～44 歳： 1 名
25～29 歳： 5 名	45～49 歳： 1 名
30～34 歳： 3 名	

(性別内訳)

男性：13 名  
女性：17 名  
30 名

30 名（平均 25.1 歳）

○ あなたは、一般的に高齢者とは、何歳以上だと思いますか。（○は一つ）

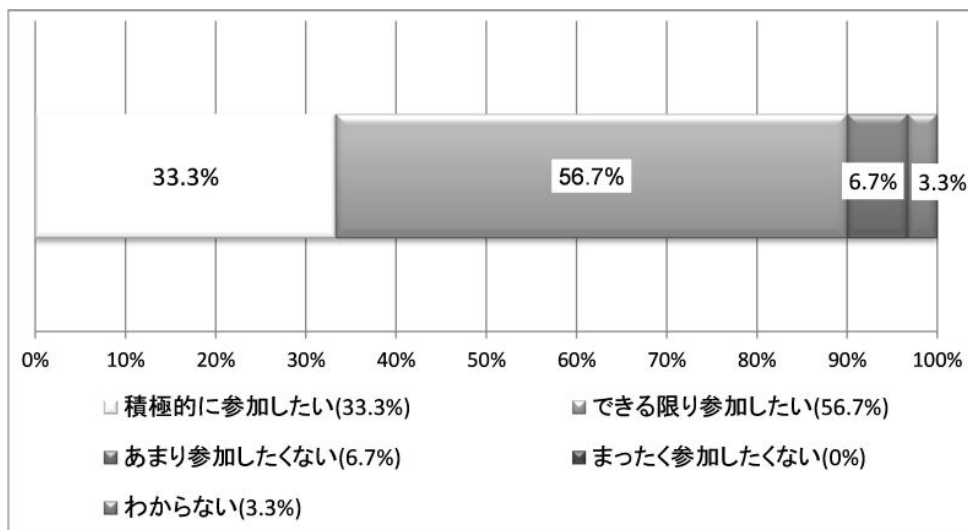


青年講座受講生に対して行ったアンケートでは、「65 歳以上」（36.7%）という回答の割合が最も多く、次いで「60 歳以上」（26.7%）となっており、合わせて 63.4% の人が、高齢者とは「60 歳代」と回答している。

【参考】 あいちシルバーカレッジ受講者等に対して行ったアンケートでは、65.5% の人が、高齢者とは「70 歳代」と回答している。

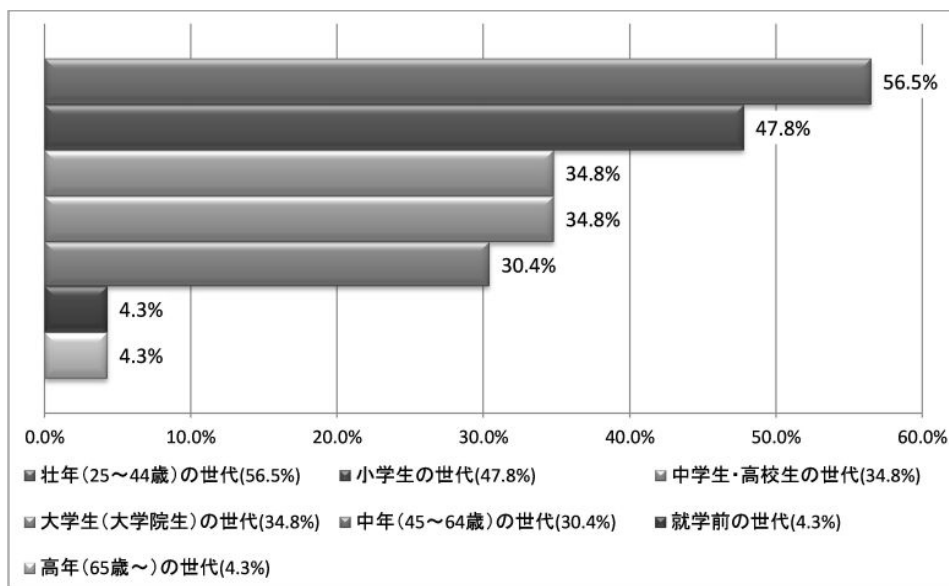


○ あなたは、世代間交流についてどのように考えていますか。(○は一つ)



青年講座受講生のうち、「積極的に参加したい」が 33.3%、「できる限り参加したい」が 56.7%となっており、9 割 (90.0%) の人が世代間交流への参加意向を有している。  
 【参考】 あいちシルバーカレッジ受講者等に対して行ったアンケートでは、84.8%の人が、世代間交流への参加意向を有している。

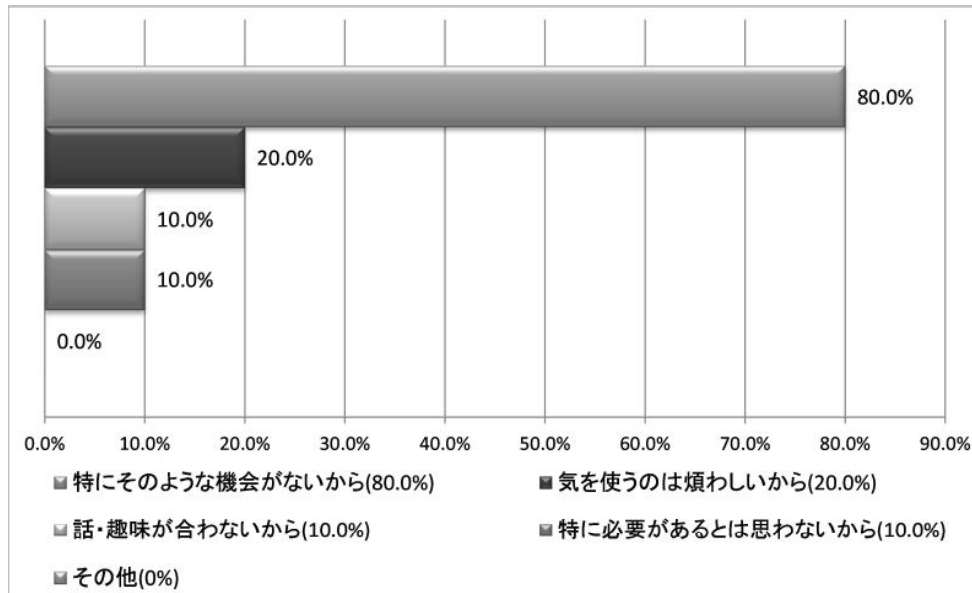
○ あなたは、家族以外の方との交流について、どのような世代との交流が多いですか。(○はいくつでも)



青年講座受講生のうち、「壮年 (25~44歳) の世代」と回答した者の割合が 56.5%で最も高く、次いで「小学生の世代」が 47.8%となっており、比較的、自身の年齢に近い世代との交流が多くなっている。

【参考】 あいちシルバーカレッジ受講者等に対して行ったアンケートでは、「高年 (65歳~) の世代」が 68.5%で最も高くなっている。

- あなたが、異なる世代の方と「交流していない」理由は何ですか。  
 (○はいくつでも)



「特にそのような機会がないから」という回答者の割合が 80.0%で最も高くなっているが、これはあいちシルバーカレッジ受講者等に対して行ったアンケート同様、世代間交流のための機会が提供されれば、世代間の交流が行われる可能性を示しているものと考えられる。

**【参考】** あいちシルバーカレッジ受講者等に対して行ったアンケートでは、「特にそのような機会がないから」が 72.1%で最も高くなっている。